

カンヌ国際映画祭に参加するための知識を詰め込んだ電子書籍を島根のローカルTV局が発刊

カンヌ国際映画祭への参加からレッドカーペットでの取材やグルメ情報まで！

山陰中央テレビジョン放送株式会社（本社：島根県松江市、代表取締役社長：田部長右衛門）が実施するコンテンツプロジェクト「DOPAMINE」[<https://tsk-tv.com/dopamine/>]では、カンヌ国際映画祭に参加するための知識をまとめた電子書籍を制作。

カンヌ国際映画祭に参加するためのア kredィテーション取得からレッドカーペットでの取材、フランス人ガイドおすすめのグルメ・ショップ取材情報など、現地でのリアルな体験を余すことなく収録している。



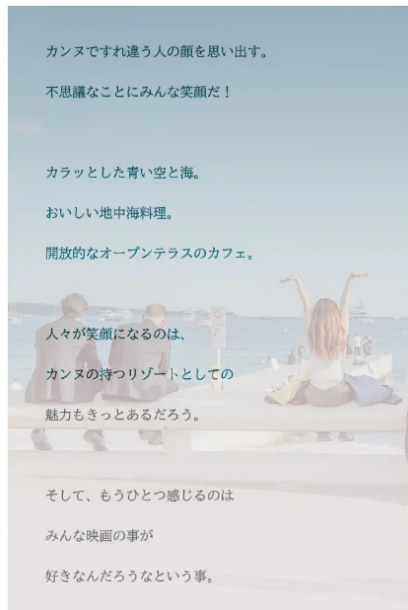
超出張報告書 知識ゼロで行く カンヌ国際映画祭

カンヌの歴史から映画祭入場方法・レッドカーペットでの取材まで



【特別企画】

カンヌから足を伸ばして…
周辺の村々へ
プロヴァンス・プチトリップ



映画祭関連施設

① パレ・デ・フェスティバル・エ・デ・Congrès (Palais des Festivals et des Congrès)

カンヌ国際映画祭のメイン会場。2,300 の座席と最新の視聴環境を備えるメインシアター「リュミエール大劇場」や「ドビュッシー劇場」のほか、プレスセンター、映画見本市（マルシェ・ドウ・フィルム）の会場もこの中に設置される。通称「パレ」。



カンヌの食文化を支える歴史あるマルシェ

カンヌ中心部、旧市街ル・シュケのふもとにある常設市場「マルシェ・フォルヴィル」。1932 年に完成したこの市場は「20 世紀遺産」に認定される建築的価値を持ちながら、地元の人々やレストランのシェフ、観光客が集うカンヌの台所として愛され続けている。



活気に満ちた朝の市場風景

マルシェ・フォルヴィルを訪れるなら、活気のある朝の時間帯がおすすめ。場内には地元産の新鮮な野菜や果物、漁港直送の魚介類、チーズ、オリーブ、ハムなど、南仏ならではの豊富な食材がずらりと並ぶ。カラフルな食材が織りなす風景は、眺めるだけでも楽しい。

月曜日は骨董市の日

毎週月曜日は通常の食材市場ではなく、骨董市が開催される。骨董市では、アンティークの品々や古道具など、また違った魅力に出会えるため、滞在期間が長い場合は両方の顔を楽しむのもおすすめです。

本書の概要

■書籍タイトル

『超・出張報告書 知識ゼロで行くカンヌ国際映画祭：カンヌの歴史から映画祭入場方法・レッドカーペットでの取材まで』（DOPAMINEブックス）

■発行

TSKさんいん中央テレビ DOPAMINEプロジェクト

■発売

Amazonにて

[<https://amzn.asia/d/0dmJmXAH>]

価格1,250円

Kindle Unlimited加入で読み放題！

「自分には関係ない世界」と思っていたすべての人へ

「カンヌ」という名前は知っている。レッドカーペットを歩く映画スターも思い浮かぶ。でも——結局、何をする場所なの？ どうやったら参加できるの？

そんな"ぼんやりとしたカンヌ像"しか持っていなかった島根県のローカルテレビ局員が、初めてカンヌ国際映画祭へ出張した。事前に必死でかき集めた情報と、現地で見聞きしたリアルな体験を余すことなくまとめたのが本書だ。

この本でわかること

「カンヌ」という街を知る

紀元前の小さな漁村から、1834年にイギリス貴族ヘンリー・ブローラム卿が別荘を構えたことで始まる上流社会のリゾート地への変貌。そして、ファシズムによる映画の政治利用に対抗するかたちで誕生した「自由な映画祭」の理念と歴史——意外と知られていないカンヌの来歴を丁寧に解説する。

カンヌの歴史 紀元前～中世

【小さな漁村と修道院】

カンヌの歴史の始まりの地。それは今では「旧市街」とされるル・シュケ。現在のカンヌ市中心街から少し西に位置するこの丘には、古代ローマ期以前（紀元前2世紀ごろ）の居住痕跡があり、この地は長らく小さな漁村であったことを示している。また、地中海を見渡す丘陵地であったこの地は、古くから軍事・交易の要地でもあった。

一方、カンヌの沖合に浮かぶレランス諸島のサンートノラ島では、修道生活と祈りのため孤立した場を求めていた聖人・オノラトゥスが5世紀初頭にレランス修道院を創建する。

中世（11～12世紀）にはル・シュケにもレランス修道院の拠点が築かれ、町と周辺地域の防衛を担った。この時代、ル・シュケ＝カンヌの歴史は、レランス諸島の修道院と密接に結びついて発展してきたと言える。



旧市街ル・シュケ 「シュケ」は小さな丘という意味>



「カンヌ国際映画祭」の全体像をつかむ

パルム・ドールとは何か。映画見本市マルシェ・ドウ・フィルムとは何か。映画スターでなくてもレッドカーペットを歩けるのか。ビギナーが抱く素朴な疑問をQ&A形式でわかりやすく解説。コンペティション、ある視点、監督週間……複雑な部門構成もすっきり整理する。

Q2. 上映作品はどうやって選ばれるの？

A. 基本的には「応募」だが、最終的には映画祭側が“招待”という形で公式上映作品を決める。

カンヌは、応募作品を審査して選ぶだけでなく、映画祭が主体的に作品を探し、監督・製作陣やセールス会社と連絡を取りながら上映枠を組み立てる、キュレーション型の映画祭である。応募していない作品でも、映画祭側が目し、推薦・招待につながることもある。

カンヌ国際映画祭には毎年 2,000 本を超える応募があり、その中から公式に選ばれるのはごく一部。ここでは、選考の考え方と流れを 4 点で整理する。

1. 原則は国際的に未発表作品

公式部門（Official Selection）の多くは、他の国際映画祭など国際的な場で未発表であり、かつ配信やパッケージ販売で一般公開されていないことが重要な前提となる。主要な映画祭はどこもプレミア性を重視するが、カンヌはその条件が



「実際に参加する」ための実用情報

アクレディテーション（バッジ）の種類と取得方法、過酷な上映チケット争奪戦の攻略法、レッドカーペットへの入場方法、プレス取材の申請手順まで。「知っていれば失敗しなかった」現地でのリアルな体験談も随所に収録している。



パリケードの向こうに見えるレッドカーペット

入場時のドレスコード

リュミエール大劇場の観覧の際、表記されているドレスコードは「Tenue correcte (トゥニユ・コレクト)」または「Tuxedo, formal dress (タキシード、フォーマルドレス)」。

「Tenue correcte」の意味は「適切な服装で」。ガチガチの正装でなくてもビジネスカジュアル程度でOKとされている。スニーカーはNGとされているが実際はパーカーにスニーカーなどのラフスタイルでも問題なく入場できている場合もあった。



「カンヌ周辺」のプチトリップガイド

映画祭のついでに立ち寄りたいカンヌ市内の名店から、断崖に築かれた"天空の村"グルドン、美食と芸術の村ムージャン、ピカソが愛した港町アンティープまで。南仏プロヴァンスの魅力を余すことなく紹介する。

レンタカーで気ままにカントリーホッピング

ここからはカンヌから足を伸ばして訪れたい周辺の町や村を紹介していく。

取材では移動手段としてレンタカーを使用。カンヌ駅にはレンタカーショップがいくつかあり「Hertz」は日本からでもウェブ予約が可能。カンヌ駅直結の立体駐車場にレンタカーが停めてあり、そのまま出発ができ便利だ。日本の免許証を所持していれば、日本出発前に国際免許証を申請することでフランス国内でも車の運転をすることが出来るようになる。



章立て

- | 第一章 | カンヌの歴史と映画祭の成り立ち |
- | 第二章 | カンヌ映画祭を知るためのQ&A |
- | 第三章 | カンヌ映画祭に参加するための具体的なHow to |
- | 第四章 | 知っておくと便利な豆知識集 |
- | 第五章 | フランス人コーディネーターおすすめのグルメ&ショップ取材レポート |

掲載スポット（一部）

- アストゥー・エ・ブラン/Astoux et Brun（創業1953年・老舗シーフードレストラン）
- ラ・パルム・ドール/La Palme d'Or（ミシュラン一つ星・ホテルマルティネス内）
- ル・パレ・デ・パン/Le Palais des Pains（カンヌ駅前の本格ブーランジェリー）
- マルシェ・フォルヴィル/Marché Forville（100年続くカンヌの台所・常設市場）
- コンフィズリー・フロリアン/Confiserie Florian（花の砂糖菓子が並ぶ1921年創業の老舗）
- ラ・タヴェルヌ・プロヴァンサル/La Taverne Provençale（標高760mの絶景レストラン・4世代続く家族の味）
- ラ・プラス・ド・ムージャン/La Place de Mougins（世界を巡ったシェフが織りなすプロヴァンス料理）
- リリアン・ボンヌフォア/Lilian Bonnefoi（名門ホテル出身パティシエが手がけるサロン・ド・テ）

こんな方におすすめ

はじめてカンヌ国際映画祭への参加を検討している方 南フランス旅行の行き先にカンヌを加えたい方
映画が好きで、いつかカンヌに行ってみたいと思っている方 「自分には関係ない世界」だと思いながら、なんとなく気になっている方

DOPAMINEプロジェクトについて

DOPAMINEは、TSKさんいん中央テレビが推進するコンテンツ発掘プロジェクト。年に一度様々なコンテンツ企画を募集してコンテンツを製作する。現在、第一期最優秀企画に選出された映画「男人魚」の制作を行っている。プロジェクトを通して、映画制作にも取り組み始めた同局が、カンヌ国際映画祭を視察した際に得た知識と体験を、広く共有することを目的に本書を制作した。世界中から映画への情熱が集まる2週間の熱量を、ローカルテレビ局員ならではの視点でまとめている。



企業・問い合わせ先

TSKさんいん中央テレビ DOPAMINEプロジェクト

〒690-8666 島根県松江市向島町134-10

e-mail : dopamine@tsk-tv.co.jp

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000125.000086416.html>

TSKさんいん中央テレビのプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchr/p/company_id/86416

【お問合せ先】

TSKさんいん中央テレビ コンテンツプロデュース部 「DOPAMINE」 事務局

Email： dopamine@tsk-tv.co.jp

電話： 0852-31-0109